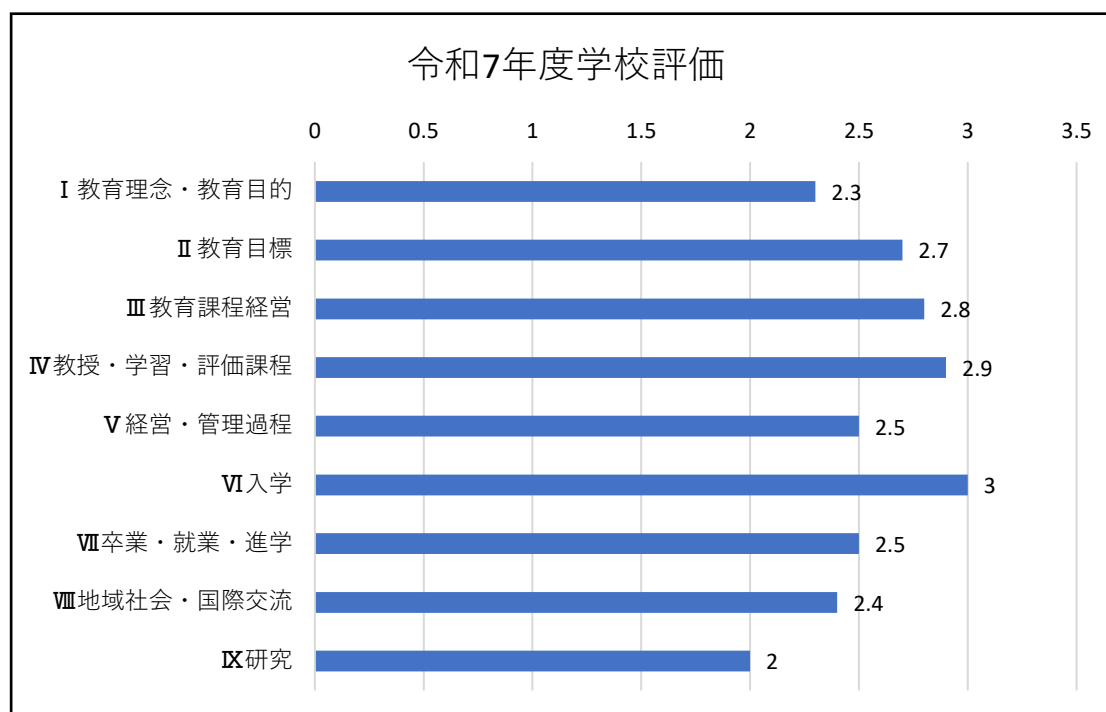


令和7年度 豊田地域看護専門学校 自己点検・自己評価

看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針に基づき、9つのカテゴリーで評価を行いました。評価は、「あてはまる」が3、「ややあてはまる」が2、「あてはまらない」が1とし、カテゴリー毎に平均点を求めました。また、今回の結果について学校評価委員会で外部委員に講評をいただきました。

カテゴリー	評価
I 教育理念・教育目的	2.3
II 教育目標	2.7
III 教育課程経営	2.8
IV 教授・学習・評価課程	2.9
V 経営・管理過程	2.5
VI 入学	3
VII 卒業・就業・進学	2.5
VIII 地域社会・国際交流	2.4
IX 研究	2



各カテゴリーの評価と課題

カテゴリー	成果と課題
I 教育 理念 ・ 目 標	<p>教育理念・教育目的は、「慈しみの精神」を掲げ、地域に貢献する人材育成を明示しており、本校の教育上の特徴を示していると考え。今後の課題は、教育理念・教育目的が教員の教育活動の指針となるよう、各教員がカリキュラム マネジメントすることである。</p>
II 教 育 目 標	<p>教育目標が教育理念・教育目的と一貫性があり、設定した教育内容を網羅しているか、カリキュラムマップで明示した。その結果、日々の講義・演習、臨地実習、教科外活動によって教育目標が達成できることがイメージしやすくなった。本校では、学年ごとに6つの教育目標に対応した目標を設定しており、学生および教員が評価している。教育目標にある「養う」という表現は、段階的に作り上げるという意味がある。そのため、段階的に作り上げた結果どのような状態になったのかがイメージしにくい。そこで、令和7年度は教員間で意見交換し、この6つの教育目標を達成した卒業時の学生像を明らかにした。今後は、この卒業時の学生像に近づいたかどうかで教育目標を評価していきたいと考える。</p>
III 教 育 課 程	<p>教育課程は、明確な考え方と根拠をもって構成されている。また、カリキュラムマップを作成したことで、教職員全体が教育理念・目的、教育目標の達成に向けて一貫した活動をしていることがイメージできるようになった。教員の資質向上については、教員のラダーでの自己評価を行い、自己研鑽の動機づけを行った。また、シミュレーション教育の学習会を開催したり、看護総合では複数の教員で事例学習を展開した。実習指導要綱については、教員と実習指導者の役割が不明確であったため、各役割を明記したものを作成した。今後の課題は、カリキュラム評価委員会を設置し、計画的にカリキュラム評価を行い、よりよい教育ができるよう改善することである。</p>
IV 学 習 ・ 教 授 ・ 評 価 課 程	<p>授業内容は、科目設定の考え方、学習目標、教育目標との関連と整合性をもっている。この点についてはシラバスに明示し、学生の学習を支援するものとなっている。授業評価は、認定試験等による学生の知識・技術の到達状況と、学生による教員の授業評価を行っている。今後の課題は、看護学としての内容の妥当性についてカリキュラム評価委員会で検討し、改善することである。</p>
V 管 理 過 程 ・ 経 営 管 理	<p>組織体制、業務分掌を提示し、教職員が各役割を果たせる体制を整えている。令和6年度の自己点検・自己評価の結果については本校のホームページに公開した。今後は、毎年、自己点検・自己評価を行い、外部の学校評価委員に講評をいただくことである。</p>
VI 入 学	<p>入学資格、入学試験等については学則に明示している。少子化や看護教育の大学化の影響を受けて、受験者数が減少している。今後の課題は、多様な入学試験の方法を検討すること、また広報委員会を新たに設置し、本校の魅力を発信して学生確保することである。</p>
VII 就 業 ・ 卒 業 ・ 進 学	<p>卒業時の到達状況を捉える方法は明確であり、国家試験合格率、就職・進学状況、卒業時看護技術到達度や学年別目標達成度、卒業時満足度調査がある。また、就職先について本校では、西三河北部医療圏55%就職率を重点目標としている。令和7年度は36.1%であった。セカンドキャリアまでを視野に入れて、本目標が達成できるよう、引き続き就職支援を行う。</p>
VIII 地 域 交 流 社 会 /	<p>令和7年度より、ボランティア活動を再開した。地域との交流を通して、地域の人々を理解するきっかけとなった。また、授業で地域フィールドワークをしたり、地域の施設を見学して地域で暮らす人々を看護の対象として理解できるよう働きかけている。</p>
IX 研 究	<p>学会や研修参加などは財政的、環境的に保障されているが、研究については、日常の業務や教員の不足により時間的保障があるとはいえない。研究を通して、新しい知見に触れ、研究心を養い、教育に活かすことは教員の使命である。今後の課題は、研究日を月に1日設け、研究に専心できる時間を設置し、教材研究等できるように支援することである。</p>